

歴史的な集落・町並みにおける「修景」に関する研究 その2

A Study on “Shukei” Principles for Infill Construction in Historic Towns and Landscapes Part2

木村 勉
KIMURA Tsutomu

キーワード：修景、重要伝統的建造物群保存地区、町並み、修理

Keywords：Shukei (Harmonizing building design with the historic landscape), Important preservation district for a group of historic buildings, historic streetscape and landscape, restoration

This paper focuses on “Shukei” principles for infill construction in historic towns and landscapes aimed at preservation of their cultural authenticity. This year, field surveys and interviews were executed in Quedlinburg, Germany.



クヴェドリントブルグ市街 旧東ドイツのザクセン・アンハルト州にあり、ヨーロッパの中世都市の町並みを残すまちとして、世界文化遺産に登録されている。「ハーフチンバーのまち」として知られるが、ドイツ統一前から過疎が進んで古い家が取り壊され、「空地のまち」とも呼ばれている。



左：『MUT ZUR LÜCKE (隙間を埋める勇気)』の表紙 クヴェドリントブルグなど4都市における新築・修景のコンペの記録をまとめた冊子。少女は新しく生えてきた永久歯を誇らしげに見せる。来年には残りの乳歯が生え変わり、永久歯で隙間が埋められる。

右：調査で訪ねたドイツ各地 クヴェドリントブルグとナウムブルグが、ザクセン・アンハルト州の建築協会主催の上記コンペに参加した都市。



はじめに

本研究は、平成22年度から科学研究費補助金の採択を受けて実施している研究「基盤研究(A)歴史地区の修景に関する国際共同研究—文化財としての真正性に基づく修景理念と手法」に連携し、同年から一連の研究として長岡造形大学特別研究費の助成を得ておこなっているものである^(注01)。

本稿では、昨年度に報告した、研究の趣旨と同年度の研究(桐生その他国内各地の調査)の概要に続き、これまでの一連の研究から、旧東ドイツのクヴェドリントブルグ市で実施した海外事例調査の一端を報告するものとする。

1. 海外事例調査・クヴェドリントブルグ市街の修景

上記の修景に関する国際共同研究は、欧州各地を対象とし、年度により各地の調査を順次実施しているが^(注02)、筆者は、本研究以前からドイツの町並みや産業遺産における建造物保存を対象に研究を進めてきた経緯があり、本研究も集中的にドイツ各地の調査をおこなうこととした。いずれも旧東ドイツにおいて、クヴェドリントブルグ市街を主として、ドレスデン中心市街、マイセン旧市街、ナウムブルグ中心市街などを調査してきている。今回は、一昨年と昨年の2度にわたる現地調査を実施したクヴェドリントブルグ市街の調査の一部を報告する。

旧東ドイツは、1990年の東・西統一前後から歴史的建造物や歴史地区の修復が活発に続けられている。これらの地における歴史地区の保存の事業については、東ドイツ時代に荒廃した旧市街地の活性化をも目的とする修理・修景に関する取り組みが、過疎化の顕著な例をもつ我が国との共通課題として参考になると考えられた。

とくに、1994年に、世界文化遺産に登録されたクヴェドリントブルグ市街は、国際的な視野に立って事業が進められており、外部からの調査の受け入れ体制も比較的整っていたところから、同市の行政担当者の協力を得て詳細な調査が可能となった^(注03)。

2. クヴェドリントブルグ市街調査の概要

クヴェドリントブルグ市は、旧東ドイツのザクセン・アンハルト州にあり、ハルツ山脈の東麓に位置する人口2万2千人の小都市である。市街の中心部に古い町並みを残すまちとして名高く、1千3百棟の中世以来のハーフチンバーの建物があり、ドイツ国内における有数の歴史地区となっている。

しかしながら、同市は旧東ドイツの他都市と同じく、ドイツ統一前後から人口流出が続き、「空地のまち」とも揶揄されるほどに^(注04)、空家や、建物が荒れて取壊しとなった空地が目立つ。まちでは、歴史的建造物の修復・再生と同時に、空地に家を建てて景観を整え、人を呼び戻し、まちを活性化させることが、緊急かつ重要な課題となっている。いわゆる町並みの整備における新築・修景として、歴史地区にふさわしく、かつ魅力的な家を新たに空地に建て、住人を増やすための取り組みが続いている。

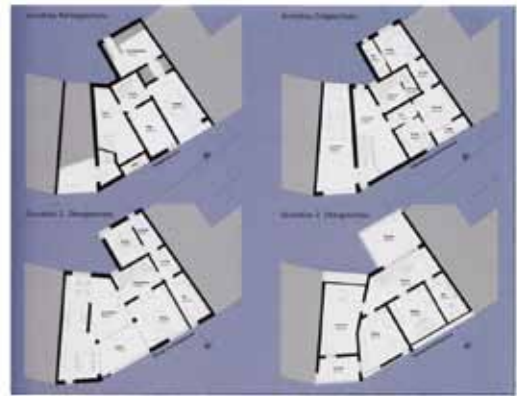
その活動のひとつとして、ザクセン・アンハルト州建築協会主催による、市街に空地を多く抱えている歴史都市を対象にした住宅設計のコンペが開かれ、クヴェドリントブルグ市がこのプロジェクトに参加した^(注05)。

本稿では、このコンペの成果を記録した冊子『MUT ZUR LÜCKE (和訳：隙間を埋める勇気)』にもとづき、クヴェドリントブルグ市街のシュマーレ通り15号の敷地における新築・修景の検討過程を事例として紹介する^(注06)。

上記冊子のまえがきには、州の開発交通大臣であるデーレ・カールハインツ博士が、「この冊子に掲載されている建築コンペの作品に、好ましい例が示されている。かつてそこにあった建

**QUEDLINBURG Schmale Straße 15
1. PREIS**

DIETZSCH & WEBER ARCHITECTEN, HALLE (SAALE)
Dipl.-Architekt Thomas Dietzsch, Freier Architekt
Dipl.-Ing. Andreas Weber, Freier Architekt
Mitarbeiterin: Katharina Tüll



Beim Einzug haben die Entwurfsautorinnen die Straßenfassade ihres neuen Mietgebäudes abgeleitet. Sie folgen damit der Grundstruktur des Vorgängerbaus und adaptieren gleichzeitig einige frühere Gestaltungselemente wie beispielsweise die zweigeschossige Loggia, die jetzt zur Durchfahrt wird.

Die Teile gliedern die Fassade. Entwurf: eine moderne Variante eines Zwerchhauses im Mittelteil mit einer darüber befindlichen Loggia, die als eine Durchfahrt im abgewinkelten Gebäudeteil und drittens, ein Fassadenrispung, der in Erd- und Kellergeschosses Gangsystem und Loggia der unteren Wohnung einleitet. Diese führt zu einer Unschärfe, die ein Bild des sich vom Dörfchen kommend befindet. Aus dieser Perspektive findet sich eine bemerkenswerte Harmonie zwischen zeitgenössischer Architektursprache und der historischen Nachbarschaft.

Der Eingang in das Gebäude haben die Architekten in der Durchfahrt auf der Ecke mit einem Sammelkassen.

Zugang zu einer Eingangsverwehrt geplant. Im Ober- und Dachgeschoss gibt eine großzügige Mansardendecke eine Abkantung zur Loggia frei. Alle Wohnbereiche sind nach Süden, die Schichtkante nach Norden ausgerichtet.

Haben gut isolierende Wärmedämmung und Mehrfachverglasung sowie das energetische Konzept eine Fußbodenheizung und eine Wärmepumpe mit Erdwärmesonden im Garten vor.

Das Fazit der Jury: Trotz der unterschiedlichen Gesamtansätze erhält der Ort durch das Gebäude eine neue Adresse mit Qualität.

Aus denkmalpflegerischer Sicht: ... Insbesondere dort, wo aus städtebaulicher Sicht ein Punkt die Linie mäßig wird – am schmalen Bauort zur Goldstraße hin –, müsste der Charakter verändert werden. Im Rahmen der Umsetzung in der UNESCO-Welterbestadt Quedlinburg ist diese Arbeit weiter zu diskutieren.



QUEDLINBURG Die Postkarte

シュマーレ通り 15 号の新築・修景 1 位の作品 『MUT ZUR LÜCKE』 p.18、19

物が失われて空地となった土地に、再び建物を建てて空地を埋めることにより、いかにその場所の価値を高めることができるのか、具体例をもって市民に示している。」と記し、コンペ開催の意義を語っている。

3. クヴェドリブルグ市街における新築・修景コンペ

コンペの対象地のひとつとなったクヴェドリブルグ市街のシュマーレ通り 15 号の空地の場合、冊子には 1 位から 3 位までの作品が紹介されている。

この空地のある一帯の状態は、冊子に以下のような解説（抜粋）があり、歴史地区における新築・修景の設計にあたって留意すべき事柄がこのように示されたことがわかる^(注7)。

シュマーレ通りとゴールド通りの交差するあたりは、18 世紀から 19 世紀にかけて建てられたハーフチンバーの家によって家並が形成されているのが特徴である。それらの通りの角地に、数年前から空地が大きく口を開けている。

この通りの家の多くは切妻、平入りの二階建て、ハーフチンバーは装飾性が高く、2 階には持送りが設けられているのが特徴である。瓦葺の屋根の多くには、屋根窓あるいは荷物の荷揚げに使われた「小破風」が付いている（訳者：戦前までは住宅の屋根裏は一般的に倉庫として使われた。穀物などの荷物を簡単に持ち上げるため屋根に取り付けた）。

空地に隣接するゴールド通り 25 号には、1820 年前後の、漆喰で塗られたハーフチンバーの家が建っている。立派なファサードを持ち、町並みの中でもとくに目を引く存在である。シュマーレ通り 50 号の、17 世紀に建てられた商人の家も目立っている。最近修復された建物であり、装飾性の高いハーフチンバーを持っている。ちょうど空地の向こう側、ゴールド通りから良く眺め

られるところに建っている。

近所には、他にも重要な位置を占める家がある。例えば、シュマーレ通り 13 号の、1592 年にニーダーザクセン様式で建てられた、とくに価値の高いハーフチンバーの家である。

対象となるシュマーレ通り 15 号の空地は、コルン広場から約 200 メートル、中央広場から約 400 メートルしか離れていない。この周辺の家のほとんどは住宅として使われている。（中略）この空地に 16 世紀に建てられた当初の建物は、現在ではヴォールトの地下室しか残っていない。新築するにあたっては、この地下室の保存が文化財の立場から望まれている。

次に、1 位から 3 位までの作品について、1 位からそれぞれに挿図とそこに添えられた解説・審査員評・文化財保存局の所見を掲載する^(注8)。

クヴェドリブルグ：シュマーレ通り 15 号

1 位

ディートシュ・アンド・ヴェーバー建築事務所／ハレ

建築士 ディートシュ・トーマス

建築士 ヴェーバー・アンドレアス

協力者 ティール・カタリーナ

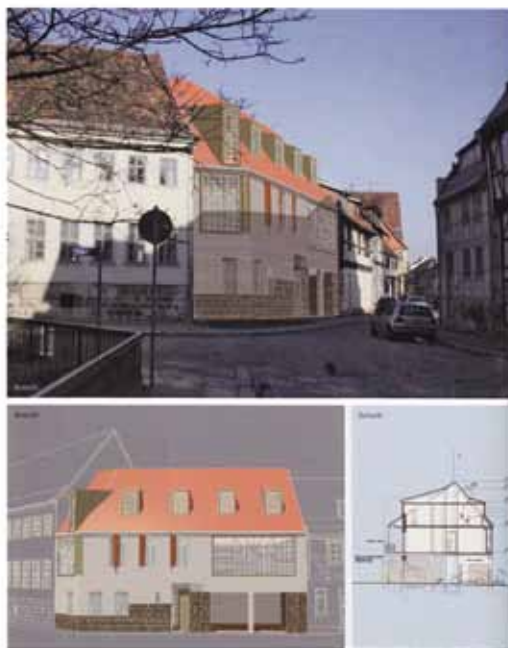
建築家は、住宅のファサードを非対称的に折り曲げた。以前この地にあった住宅の平面を参考にしながら、いくつかの新設部分を組み込んだ。例えば、以前は 2 階に上がる店の入り口だった箇所が、現在は通路となっている（訳者：以前の建物はここに店があったか）。

ファサードを次の三つの部分に分けている。

1. 中央部分には「Zwerchhaus」（破風付の大きな屋根窓）が現代的な解釈に基づいて設計され、その下にロジア（涼み廊）が

**QUEDLINBURG Schmale Straße 15
2. PREIS**

HÄHNKE + SAAR ARCHITEXTENGESellschaft MBH, WERNIGERODE
Dipl.-Ing. Kerstin Hähnke, Freie Architektin
Dipl.-Ing. Marco Saar, Architekt



58



Als einen wunderbaren Gegenpart zu dem, in seiner Kultur dominierten Gebäude Goldstraße 25 wollen die Verfasser ihren Entwurf verstanden wissen. In Anlehnung an die ursprüngliche Bausubstanz ist so ein ruhiger, typischer anmutender Baukörper in typischen Materialien entstanden.

Das sich hinter dessen einseitiger Fassade zum Stadthaus erhaltenden, der sich zudem reichhaltig zum Material in das Grundstück schenken, ist ein außen nicht wahrnehmbarer. Eine große Dachkante und ein großes Fenster akzentuieren die städtebauliche wichtige Funktion der Goldstraße. Die weitere Gestaltung auf dem ursprünglichen Substrat passen das Gebäude, das Trauf- und Firstlinien der Nachbargebäude aufnimmt, perfekt in die bestehende Bausubstanz ein und gliedern zugleich die große Dachfläche.

Individualität zeigt das Gebäude in den Details: hohe Fenster an 3. Obergeschoss und farbige, schwebende Klappstühle sowie einem festen Sonnen- und Schattenschutz aus Weidenholz. Der Eingang in das Gebäude

befindet sich im Erdgeschoss der Schmalen Straße, wo zudem zwei Flur-Einstiege vorgesehen sind. Barrierefrei gelangt man mit einem Aufzug auch in die Obergeschosse. Mit hochgedämmter Konstruktion erreicht der kompakte Baukörper Niedrigenergiebestand.

Das Fach der Jury insgesamt ist ein Haus mit funktioneller und gestalterischer Qualität, welches bestmögliche einen großen Interessenskonflikt löst.

Aus denkmalpflegerischer Sicht: ... Der Entwurf erfüllt das denkmalpflegerische Anliegen der Einfügung in die Nachbarbebauung und der Eigenständigkeit in der Details. Punkte zu bewerten ist die Weiterentwicklung der für Quedlinburg typischen Holzbauweise.



59

シュマール通り 15 号の新築・修景 2 位の作品 『MUT ZUR LÜCKE』 p.20、21

設けられている。

2. 折り曲げた部分に通路が設けられた。

3. ファサードの一部を引っ込ませ、そこにアパートの地下駐車場の入口とロジアが設けられている。

これらの多様性によって統一性がまもられていないが、ディップ広場から見るとこの印象は改善される。この視点からは、新しい現代の建築とその周辺にある歴史的な建築が調和して見える。

入口は通路内に設けられた。1 階のアパートへの出入口はバリアフリーである。2 階と屋根裏にはゆとりのあるメゾネットが設けられ、そこから聖エギディ教会を望むことができる。またすべての居間が南向きであり、寝室は北向きである。

断熱性の確保のために、二重窓と床暖房が設計された。湯沸しは、庭に設置された地熱ゾンデによるヒートポンプを用いて行うことができる。

審査員の結論 この設計案によって、設計の質がさまざまであっても、まちの中心部で質の高い居住ができることを証明している。

文化財保存の立場からの所見 この位置は幅の狭いゴールド通りの突き当たり部分であり、町並みの中で美的景観が必要とされている。クヴェドリブルクが世界遺産に登録されていることから、これを実施するとすればこの案をさらに検討すべきである。

クヴェドリブルク：シュマール通り 15 号

2 位

有限会社ハーネ＋ザール設計事務所／ヴェルニゲローデ

建築士 ハーネ・ケルスティン

建築士 ザール・マリオ

この案は圧倒的な存在感を誇るゴールド通り 25 号の相方として

設計された。歴史的な町並みにしたがった落ち着いたのあるプロポーションで、この地方の典型的な材料を使用した設計案ができた。

統一されたファサードを持つ住宅の裏には、奥行き 10 メートルを超える最近の住宅が二棟建っているが、外からは見えないようになる。景観上重要となるゴールド通りとの角に、大きな屋根窓と（2 階に設けられたもう一つの）大きな窓でアクセントを置く。このまちによく見られる切妻屋根には、4 か所に屋根窓が設けられ、大きな屋根を区分している。軒高も棟高も隣の家から連続しており、町並みにぴったりとはめ込まれている。

この案の細部には個性がある。2 階の縦長の窓には色が塗られ、幅の狭いよろい戸と、柳で編んだ日除けが設けられている。入口はシュマール通り沿いの 1 階にあり、2 台分の駐車場も設置されている。ここからエレベータで、2 階や屋根裏に上がることができる。

断熱性が重視されている。コンパクトなこの建物は、省エネルギーの基準を満たしている。

審査員の結論 活用やデザインの質が高く、多くの人々がこの案に興味を示すだろう。

文化財保存の立場からの所見 文化財保護機関が定めている、町並みとの調和と細部を満たしている。クヴェドリブルクの特徴である木造構造をさらに発展させていることは、たいへん好ましい。

クヴェドリブルク：シュマール通り 15 号

3 位

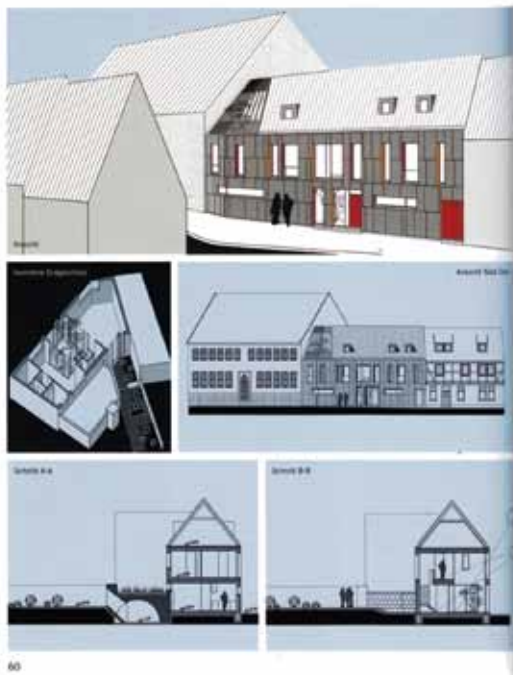
建築士 フィシャ・ガブリエーレ

協力者 テンペ・マルリス

この設計案は家庭用のパティオ形式の住宅で、部屋が中庭に

QUEDLINBURG Schmale Straße 15
3. PREIS

DIPL.-ING. GABRIELE FISCHER, FREIE ARCHITEKTIN, QUEDLINBURG
Mitarbeitende: Marius Timpe



Ein Patrizierhaus für eine Familie zu planen, bei dem sich die Räume zu einem Innenhof orientieren, war die Idee der Entwurfsverfasser. Diese entstand, nachdem der Grundstückseigentümer den Wunsch nach dem Erhalt des historischen Kellergewölbes und die Modernisierung der Öffnung der Wohnräume zur Garten- und Sonnenseite nicht zulassen.

Entstanden ist ein Gebäude in Holzhauensweise, das eine intensive Fassadenbearbeitung mit geschlossenen Fenstern im Obergeschoss und den Einsatz von kleinteiligen Fassadenmaterialien ermöglicht. Tadel- und Fröhen des wichtigen Nachbargewölbes geben den Maßstab vor, mit dem sich das Haus in die Schmale Straße einpasst.

Eine Familie mit zwei Kindern könnte hier in idealer Weise wohnen, mit Wohnzimmern, Küche und Essplatz sowie ausreichend Wirtschafts- und Abstellräumen im Erdgeschoss, Schlaf- und Bädern im Obergeschoss sowie Gäste- und Arbeitsräumen im Dach. Um den offenen Hof in der Mitte des Hauses gruppieren sich diese Räume und erhalten mindestens Licht von Süden. Ein langgestreckter Garten, der planungs- und über die Wohnräume erreichbar bleibt, grenzt an die als Abstellräume genutzten historischen Kellergewölbe. Ein barrierefreier Zugang zur Erdgeschoss-ebene ist möglich.

Ein Mini-Blockheizkraftwerk plant die Erdwärme aus dem Erdreich zu nutzen. Es soll zusammen mit der hochgeplanten Gebäudeteile ein Kfz-Energieparcours entstehen lassen.

Das Faible der Jury: Der Entwurf nimmt die städtebaulichen Raumkanten und den Maßstab auf ... Die Fassadenbearbeitung durch Fassadenmaterialien erzielt die gewünschte Kleinigkeit.

Aus denkmalpflegerischer Sicht: ... Der Entwurf erfüllt die denkmalpflegerischen Anliegen der Einflügung in die Nachbarschaft bei Eigenständigkeit und Zeitgenossenschaft der Architekturpraxis, Materialien und Details.

シュマール通り 15 号の新築・修景 3 位の作品 『MUT ZUR LÜCKE』 p.22、23

面している。ここでは歴史的なヴォールト地下室の保存が条件であり、加えて敷地が複雑でもあった。庭や、日当たりの良い方角に窓を開けることができなかったため、この案が考え出された。

木造フレームの家で、2 階には床から天井までの高さの窓が設けられた。外壁に小型の繊維セメントボードを張ることによって、おもしろいファサードが可能になった。右側に隣接する住宅の軒高と棟高を基準にしており、シュマール通りに調和するものである。

1 階には、居間、ダイニングキッチン、収納力のある納戸と物置部屋がある。2 階には寝室と浴室が、屋根裏には客間と仕事部屋が設けられ、夫婦と子供二人の家庭が、ここで理想的な生活を送ることができる。

部屋が中庭を囲んでいるため、南から間接的に光が入る。奥行きのある庭は、物置として使用されている歴史的なヴォールト地下室に隣接しているため、居間からしか出入りできない。1 階への出入りはバリアフリーである。

小型トータル・エネルギー・ユニット (BLOCKHEIZKRAFTWERK) の設置が計画されている。高断熱の外壁とともに省エネ住宅の基準を満たす。

審査員の結論 この案は歴史的な町並みのプロポーシオンを引き継いでいて、ファサードは、繊維セメントボードの使用によって要求されている小規模な装飾 (窓の設置等) が可能になった。

文化財保存の立場からの所見 周辺の建物との調和を図りつつ、建築表現や建材、細部意匠は独自性を持っており、現代的である。

4. クヴェドリブルグ市街調査の成果と今後

設計作品の外観をみると、1 位は現代的な要素を最も多く含

んでいる。大きく採られた屋根窓は、現代的な解釈がなされて壁面まで一体となり、それが (透視図の描き方にもよるが) 強調されている。各窓も大きく、ロジアを設けたことも現代的であることを特徴付けている。2 位は、壁面を比較的多くとり、空地の両脇の建物に揃えたプロポーシオンに仕上げている。一部の屋根窓と窓だけを、現代的なデザインによって大きくとっているが、これも大きな開口が強調されないよう細かく棧で割ったガラス戸が用いられている。全体として落ち着いた姿をもっている。3 位は、2 位のプロポーシオンよりもさらに伝統的な壁と窓をもった姿に近くしつらえ、家並の連続性を保たせているが、一方で外壁にセメントボードを採用して鮮やかな色彩を添えるなど、現代性を演出している。窓を他の案よりも小さくしている理由は、通りに面した景観を意識して伝統スタイルに近付けるとともに、明るくした中庭側に部屋を向けたためである。

このように、屋根と壁面の意匠はそれぞれに個性を持たせているが、いずれの案においても必ずまられていることは、壁面線と棟高を家並に揃えている点である。このことを前提に、現代性を強調するものから伝統的な姿を留めようとするもので、さまざまにデザインされている。いずれにしても、かつてこの地にあった建物を復元的に設けたり、付近の古い家をコピーして外観に充てるような発想は見られない。

さらに平面計画を見るとおり、どの案においても共通しているのは、住居としての快適性・利便性である。そのうえで、外壁の高断熱化、二重窓、床暖房などを計画し、徹底した省エネ住宅に仕立てている。古くからあるまちでも快適に暮らすことが可能であることを強く訴えている。

これらに対する、審査員となった建築家や行政関係者の結論と、文化財保存局による所見では、微妙に見解が分かれている

Quedlinburg 市街歴史地区の主要な部分



クヴェドリントブルグ市街における歴史地区の主要な新築・修景事業 本図は、クヴェドリントブルグ市役所都市計画課のトステム・シュメルツ氏から提供を受けた修景計画資料（2011年現在）をもとに現地を確認し、クヴェドリントブルグ市街歴史地区に新築・修景計画を示したものの。ここでは、空地を“隙間”と表している。

■2009年「隙間を埋める勇気」コンペの対象となった3か所の「隙間」
 ■1996年のコンペの対象となった5か所の隙間埋める必要のある「隙間」
 ■すでに新築工事が完了、埋められた「隙間」
 ■計画中、もしくは工事が進められている「隙間」
 ■埋める必要があるが、まだ計画段階の「隙間」

ことが注目される。たとえば、審査員に絶賛されている1位の作品に対する文化財保存局の見解は、「世界遺産のまちでこれを実施するとしたら、さらに検討を要する」と含みをもたせ、反面、2位の作品には、「文化財保護機関の定める町並みとの調和と細部を満たしている」と明快に答えている。

課題となった地に新築する場合、最終的には文化財保存部局の同意が必要となることを考えると^(注09)、コンペの順位の高い方が実現の可能性が高いとは必ずしも言えないところに、「修景の一筋縄ではゆかない難しさが語られている。実際、主催者は、このコンペのねらいを、直接的に建物のデザインを決定することではなく、「空地を埋めるために、各市や施主に刺激を与えることを目的として（後略）」と記している^(注10)。

このまちに関しては、今後、修復や修景などの条例を翻訳し、そのうえでこれまで続けて調査してきた現物と照合することにより、実態を確認する作業をおこなう予定である。

脚注

(注01) 研究の目的・期待される効果、研究の実施計画など、本研究の経緯は、『長岡造形大学研究紀要第9号・2010年』の「特別研究」に掲載した「歴史的な集落・町並みにおける「修景に関する研究」」に記載。

(注02) ドイツ、フランス、イタリア、オランダ、台湾などで調査をおこなっている。

(注03) クヴェドリントブルグ市役所・都市計画課のTorsten Schmeltz氏により、2回にわたる現地案内、建築家や所有者へのヒアリングの仲介、質問の受け答え、資料提供など、多大な協力を受けている。なお、同調査には、本学非常勤講師・金出ミチルの現地調査への協力と本学大学院修士2年・川崎香織の研究補助を得ている。

(注04) クヴェドリントブルグ市役所・都市計画課のTorsten Schmeltz氏の説明による。

(注05) 同コンペを記録した冊子『MUT ZUR LÜCKE（隙間を埋める勇気）』による。p.6：ザクセン・アンハルト州建築協会の主催により、歴史的都市の市街に生じた空地を埋めるために、各市や施主に刺激を与えることを目的としておこなった事業。ハルデンスレーベン、クヴェドリントブルグ、ナウムブルグ、イエッセンの4都市を対象に実施された。費用は、州から全額が補助金として出費された。4都市合わせて48か所の設計事務所60人以上の建築家が応募した。

p.11：クヴェドリントブルグの場合、審査員として建築家や、市長ほか行政関係者が9名、専門役として州立文化財保存局、銀行、州開発交通省などの関係者4名が、それぞれ審査および論評に関わり、2008年12月に課題が提示され、審査が2009年3月におこなわれた。18作品が提出された。

(注06) 同『MUT ZUR LÜCKE（隙間を埋める勇気）』による。ドイツ語から日本語への翻訳は、元ヘッセン州文化財保存局調査官（ハイデルベルグ大学非常勤講師）・Christoph Henrichen氏に依頼し、佐藤美佳、川崎香織の協力を得て編集した。p.15～p.17：コンペの課題となった空地に新築・修景する場所は、シュマーレ通り15号・アウグスティーン通り71-73号・シュタン通り35号の3か所。これらを個々に競技設計とした。（いずれも、その一か所を補うことにより、その地域の家並が決定的に整い、修景がきわめて効果的とみられる場所が選ばれたものと考えられる。）

(注07) 『MUT ZUR LÜCKE（隙間を埋める勇気）』p.15に所載。

(注08) 『MUT ZUR LÜCKE（隙間を埋める勇気）』p.18～23に、1位から3位まで2頁ずつ所載されている。

(注09) ドイツは州単位で建築に関する法律をもっているが、いずれも、市町村行政は文化財建造物をも一般建築と同じ建築工事手続関係の窓口で扱い、文化財については内部で文化財当局の許可や同意を必要とする機構となっている。（『月刊文化財419号』の本村勉／Christoph Henrichen「日独共同研究 ドイツ・マイセンにみる歴史的な建物の修復」でこの種の手続を紹介。）

(注10) 『MUT ZUR LÜCKE（隙間を埋める勇気）』p.7に所載。この目的とともに、「州内の建築家に向けて、現代の住宅の条件を満たし、なおかつ歴史的な町並みにも配慮し、環境保護の面からも今後の手本となる案を提出するよう呼びかけた。」とある。